

# 2010年3月期 第2四半期 決算説明会

## 蛇の目マシン工業株式会社

2009年11月11日

### 将来予想に関する注意事項

本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。  
そのため、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な重要な要因により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## I 2010年3月期 第2四半期（上期）決算概要

---

## II 「収益改善計画」進捗状況、 および通期業績見通し

---

## 上半期業績概要(連結)

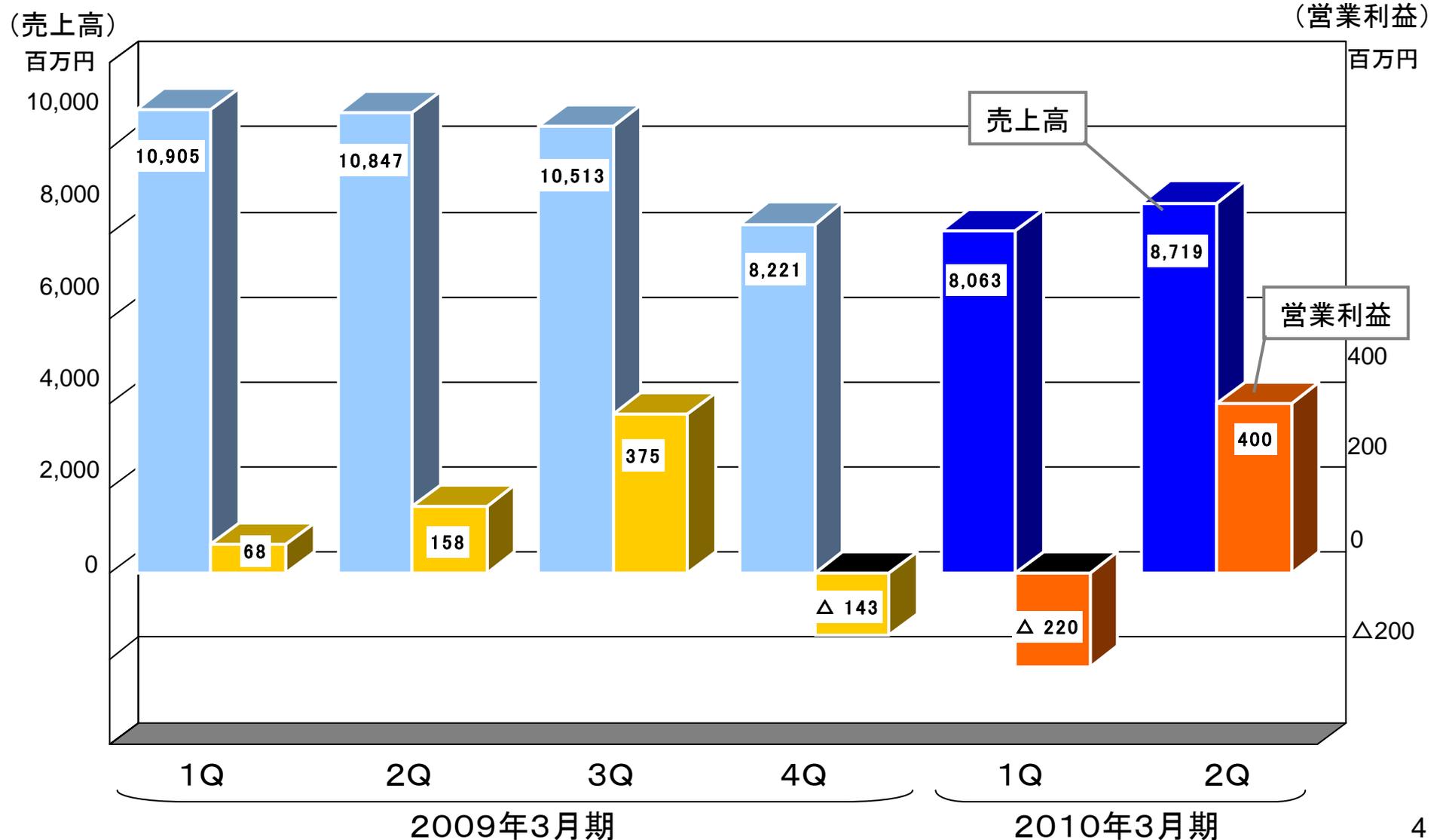
(百万円)

	2008年9月期 実績	2009年9月期 実績	増減 (前期比)
売上高	21,752	16,782	△ 4,969
営業利益 〔営業利益率〕	227 1.0%	180 1.1%	△ 46 0.1%
経常利益 〔経常利益率〕	166 0.8%	11 0.1%	△ 154 △ 0.7%
四半期純利益	△ 551	21	572
為替レート (円/US\$)	106.12	95.48	-10.64

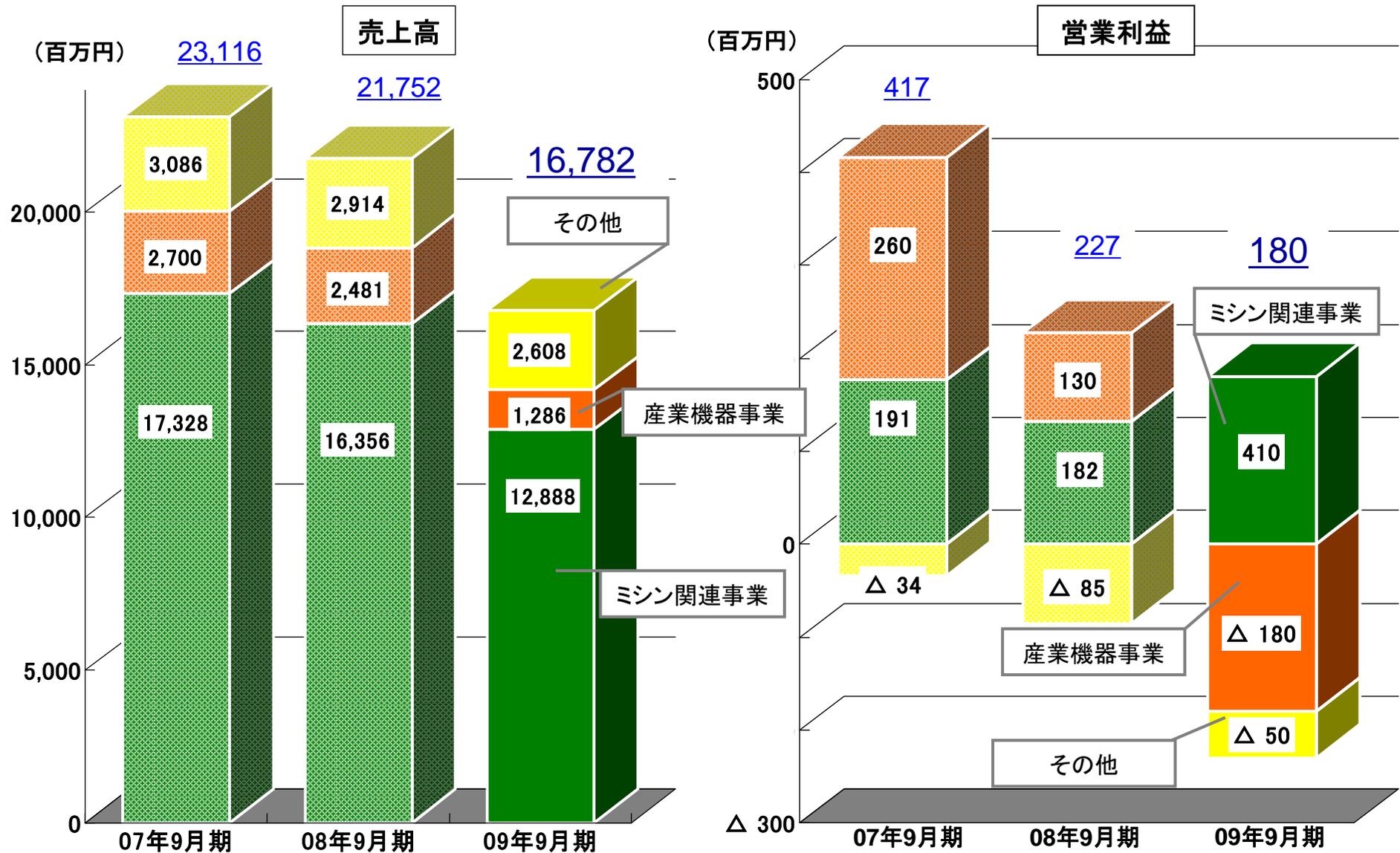
\* 為替レートは期中平均レート

# 四半期業績推移

- ・第1Qでの底打ちから第2Qでの回復基調への転換
- ・収益改善施策効果により損益分岐点が低下し、第2Qに利益が大幅改善



# 事業セグメント別業績推移

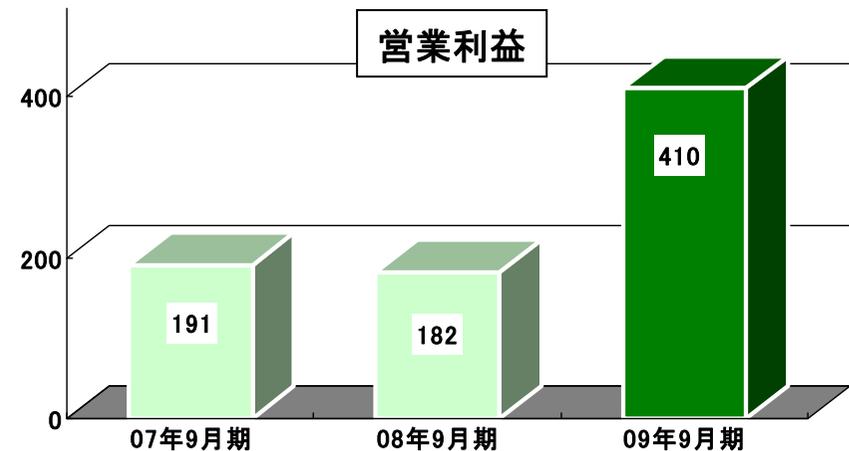
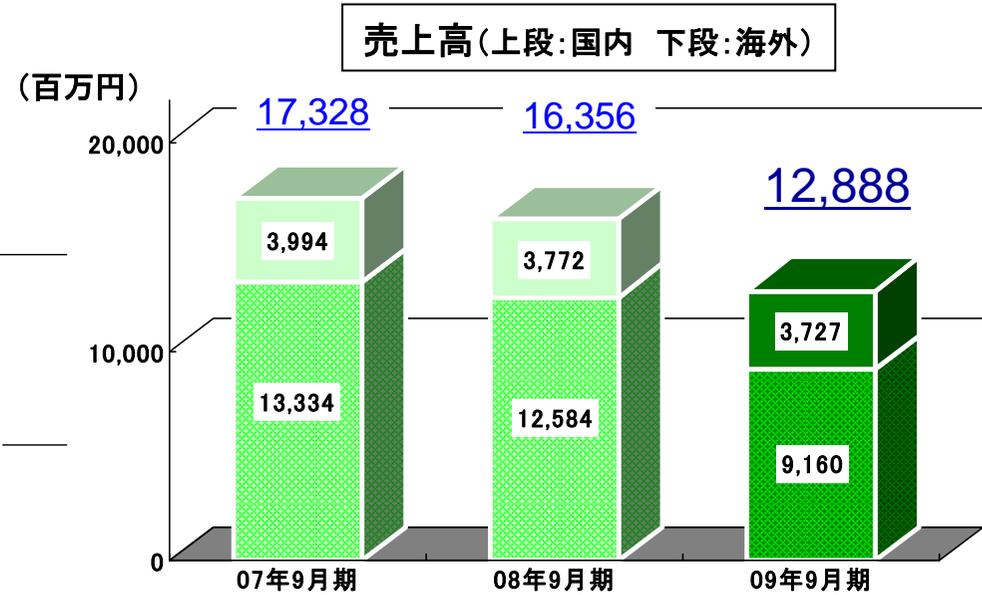
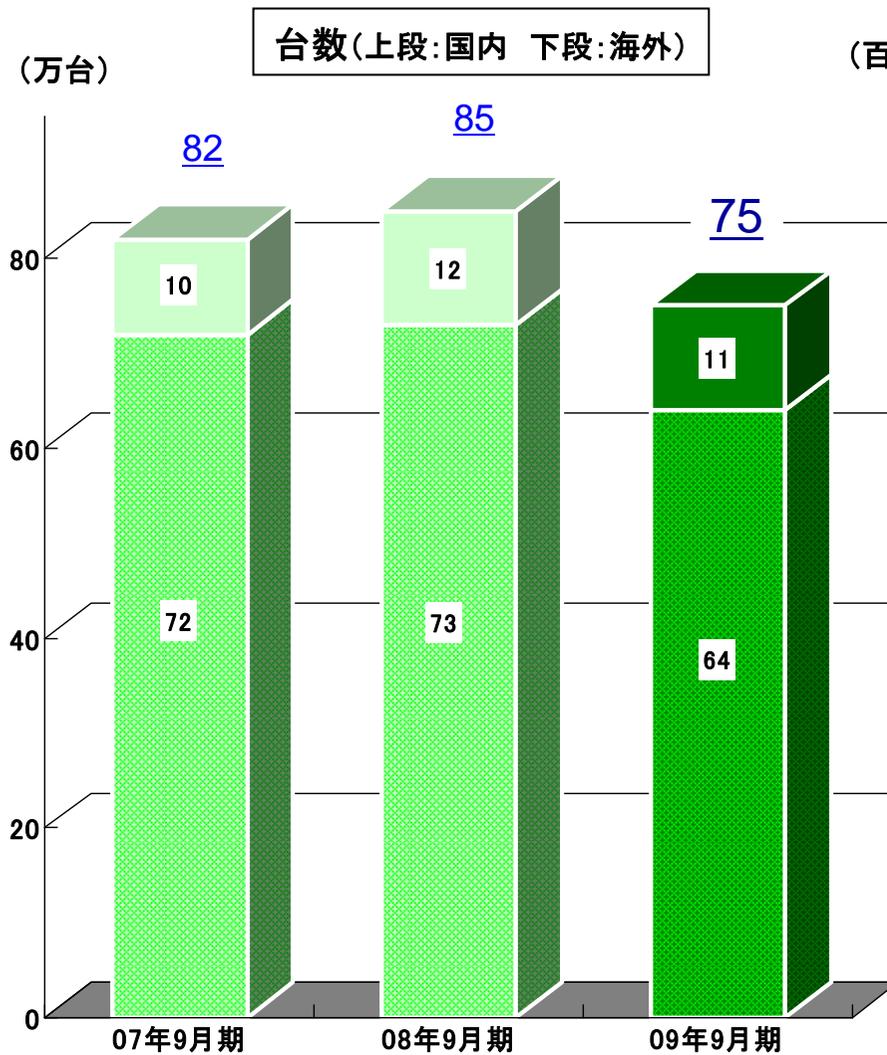


その他に消去分を含む

# マシン関連事業の業績



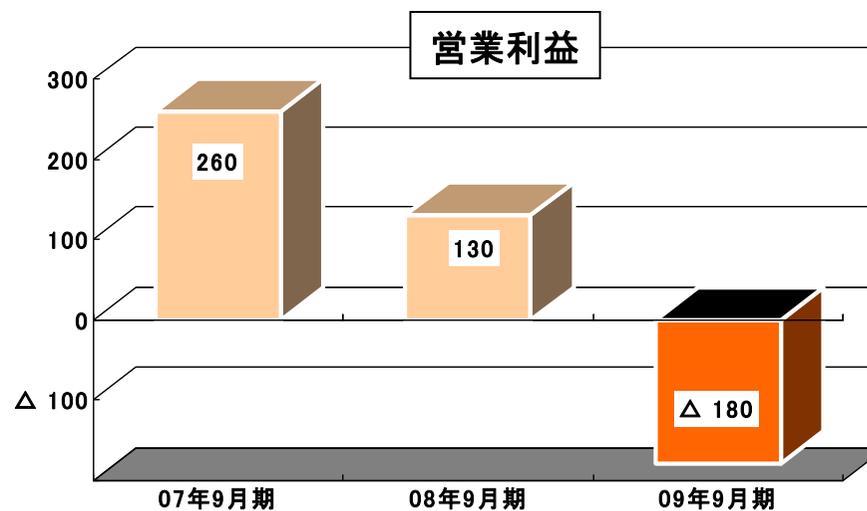
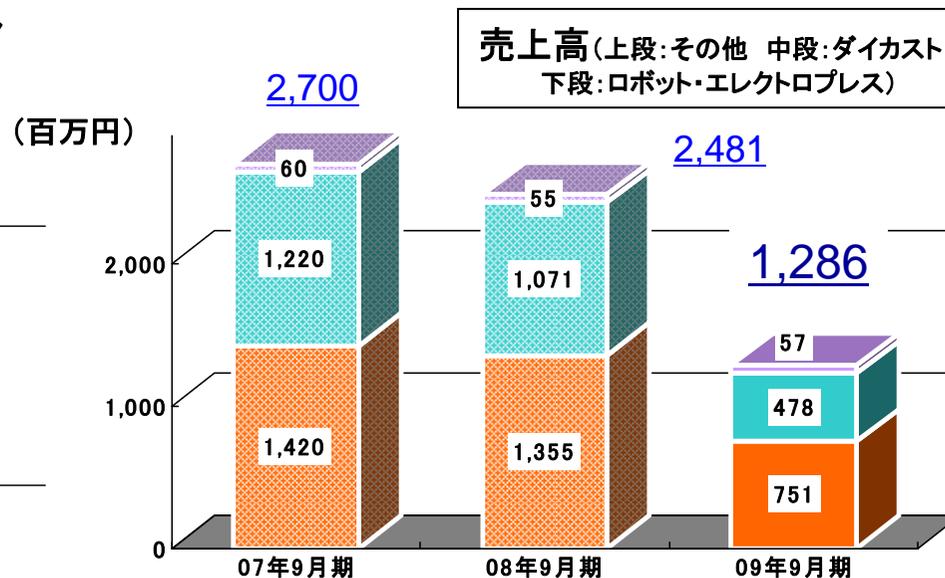
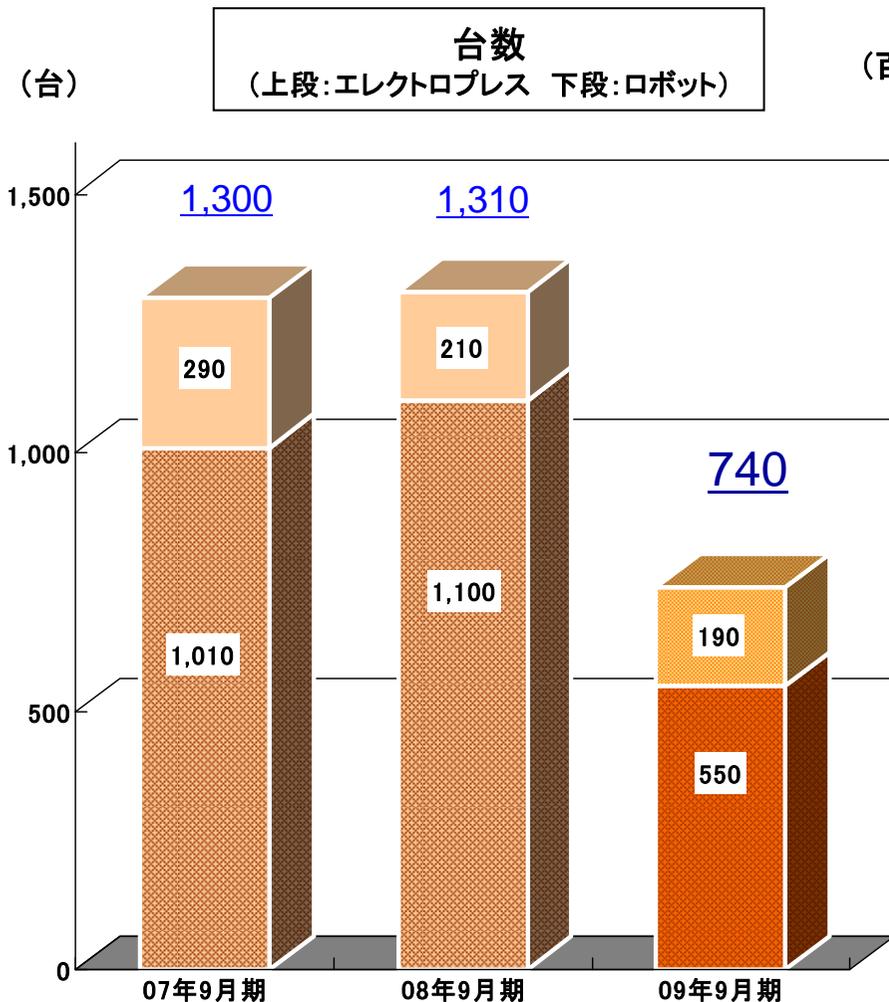
販売台数は第1Qでの前期比8万台の遅れから第2Qは前期比2万台の遅れまでに回復



# 産業機器事業の業績



- ・ロボット、エレクトロプレスは中国・タイ・韓国市場は回復してきているものの、国内市場での企業の設備投資抑制の影響
- ・ダイカスト事業の受注回復に遅れ



## I 2010年3月期 第2四半期（上期）決算概要

---

## II 「収益改善計画」進捗状況、 および通期業績見通し

---

## 収益改善計画

---

- ① ジャノメグループの再構築
- ② 製造コストの削減
- ③ 経費削減の継続
- ④ キャッシュ・ポジションの改善

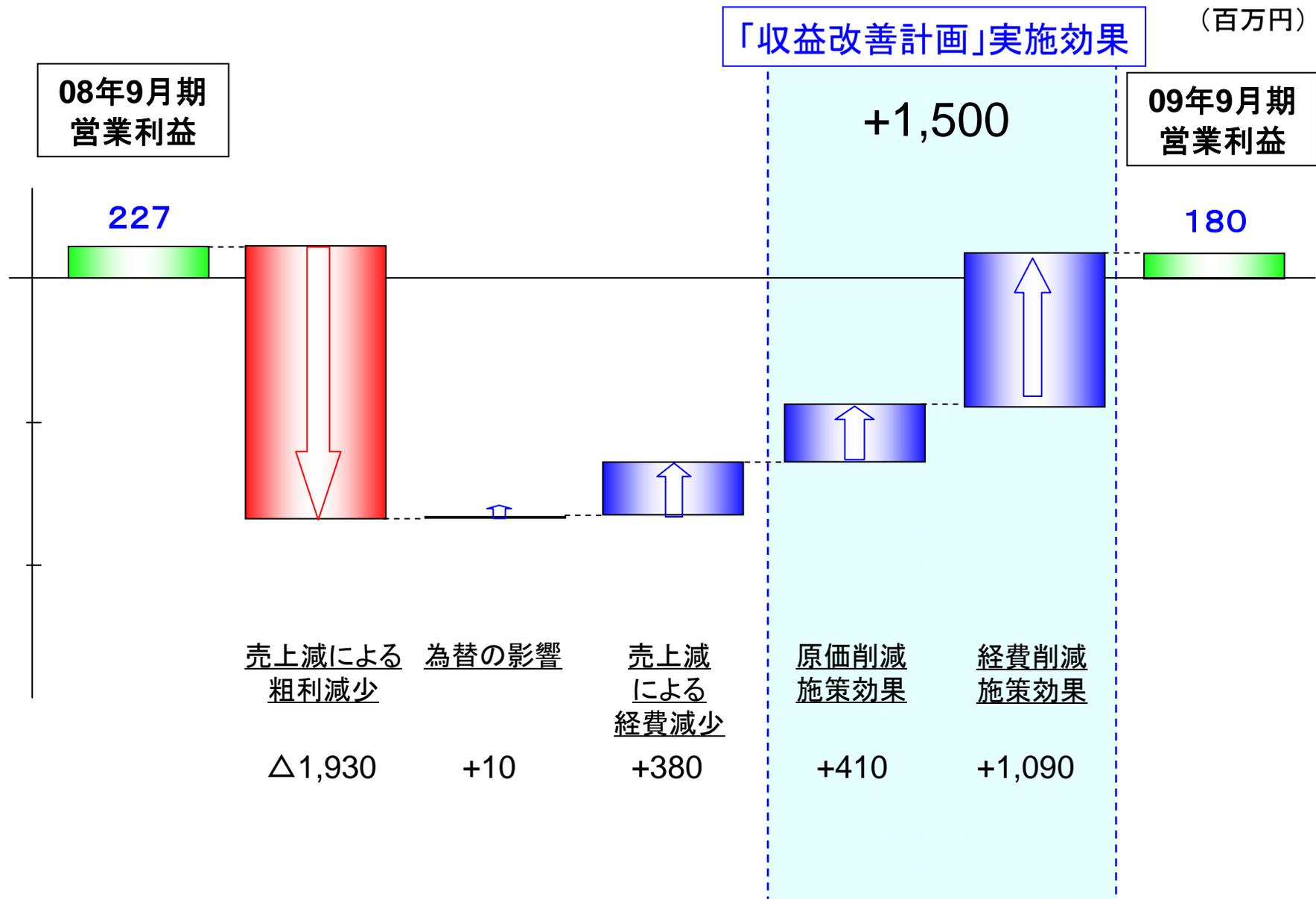
# ジャノメグループの再構築

<テーマ>	<実施内容>
<p>本社の八王子移転</p>	<p>2009年7月6日をもって、全ての本社機能の移転を完了</p>
<p>生産体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率的な生産体制の構築による製造コストの低減</li> <li>・ 宝生マシン製造（株）を2009年9月末日をもって清算終了、トピア工業（株）を9月末日で解散、12月末清算予定</li> </ul>
<p>販売体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JAIとJAMACを統合</li> <li>・ JAIメキシコ支店の閉鎖</li> <li>・ 国内直営支店の再編成（09年3月末136店⇒9月末128店）</li> </ul>
<p>スリム化</p>	<p>10月1日付けで組織変更を実施 （28部50グループ体制を20部25グループ体制に変更）</p>

# 製造コスト削減・経費削減の継続

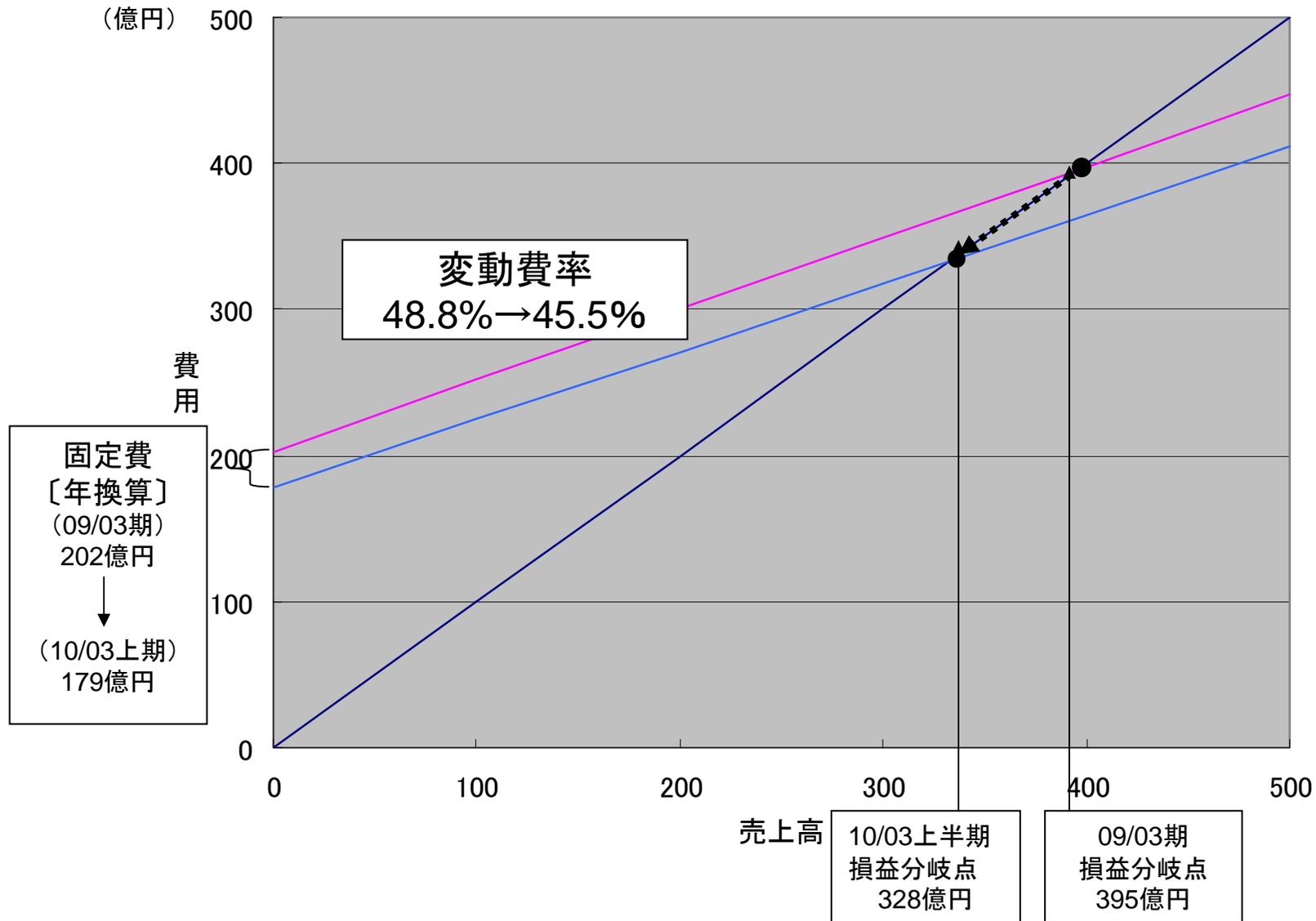
<テーマ>	<実施項目>	<上半期効果> (単位:億円)
原材料費・ 製造経費の低減	発注先変更による低価格部品への切替 部品メーカーでの生産効率向上による部品 価格の低減	1.2
労務費の削減	生産拠点の適正人員への見直し (前年同期比約320名減)	2.9
関連子会社等の 統廃合による 経費削減	蛇の目興産、宝生マシン、JTS、JAMAC、 JAMEXの5社を清算・統合	2.6
その他経費の削減	経費支出見直しによる削減	1.4
人件費の削減	上半期賞与削減 管理職給与カット 人員減 (前年同期比約100名減)	6.9
2010年3月期 上半期の効果合計		15.0

# 営業利益の内訳(前年同期比)



# 改善効果を含めた上半期の損益分岐点売上高

固定費が23.6億円減少、変動費率が3.3ポイント低下し、損益分岐点売上高は67億円低下



# キャッシュ・ポジションの改善

<テーマ>	<実施内容>
収益の改善	損益分岐点売上高の低下 引き続き収益改善に取り組む
棚卸資産の圧縮と 在庫回転率の改善	棚卸資産は約6億円の圧縮 在庫圧縮と共に優先課題として更に改善を図る
設備投資の抑制	上期において金型を除いて新規の設備投資はない
不動産の売却	直営店舗（富士・小金井） 10月には麻布ビルを売却

# 貸借対照表の状況



(百万円)

		前期末 (2009年3月31日)	当第2四半期末 (2009年9月30日)	増減	
資産	流動資産	19,114	16,803	△ 2,310	
	固定資産	31,883	31,536	△ 346	
	資産合計	50,997	48,340	△ 2,656	
負債・ 純資産	負債	流動負債	18,635	17,961	△ 674
		固定負債	19,620	17,707	△ 1,913
		負債合計	38,256	35,668	△ 2,588
	純資産	資本金	11,372	11,372	—
		利益剰余金・自己株式	△ 2,169	△ 2,119	50
		その他	3,537	3,418	△ 119
		純資産合計	12,740	12,672	△ 68
負債・純資産合計		50,997	48,340	△ 2,656	

# キャッシュ・フロー計算書

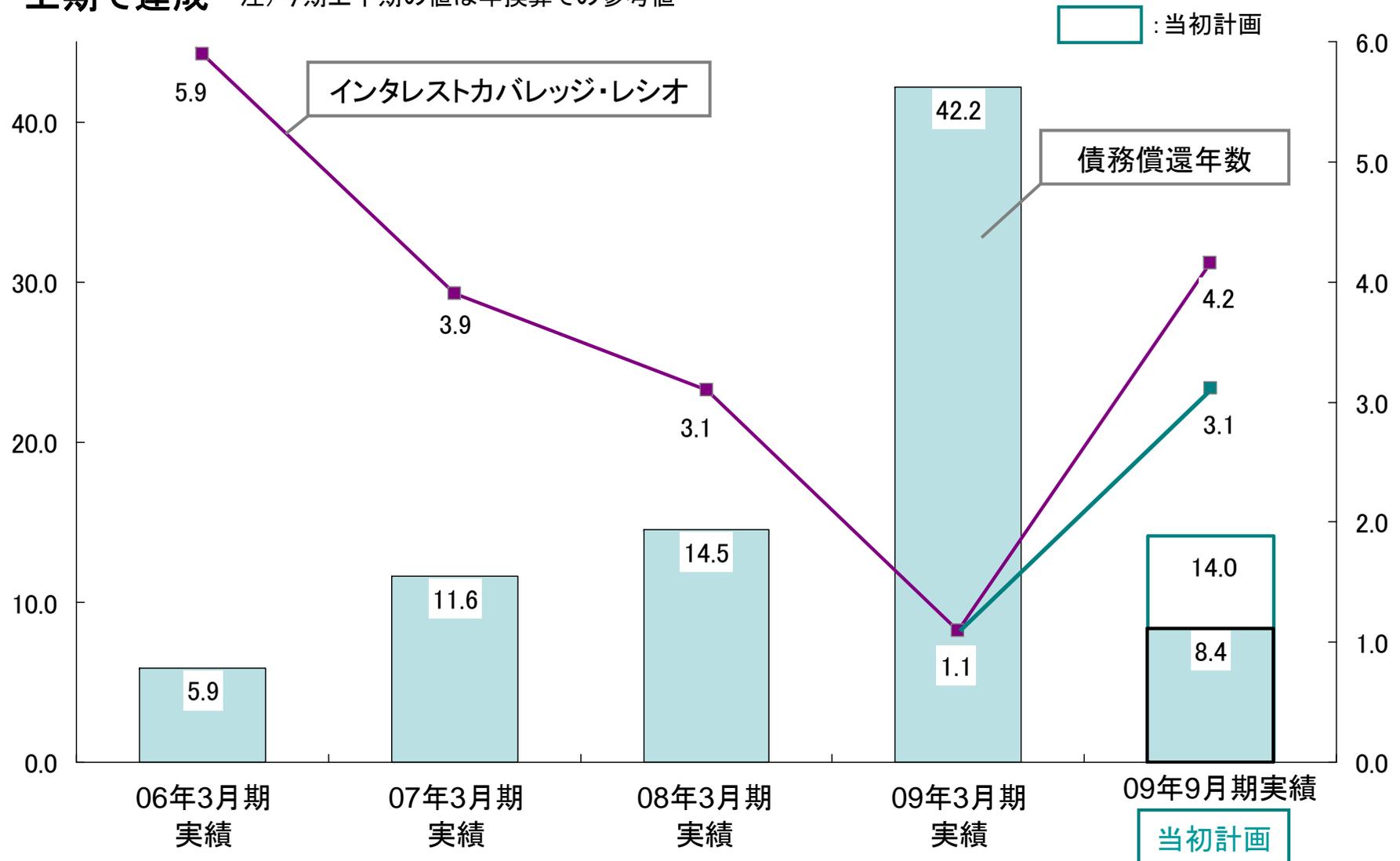


(百万円)

	2008年9月期 実績	2009年9月期 実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△697	1,187	1,884
税金等調整前純利益	△250	298	548
減価償却費	585	507	△78
売上債権・棚卸資産の増減	△1,167	416	1,583
その他	132	△35	△167
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,119	△150	969
有形固定資産の取得	△1,341	△429	912
その他	221	278	57
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,462	△2,372	△3,834
短期借入金の純増減	2,536	△1,215	△3,751
その他	△1,073	△1,156	△83
現金及び現金同等物に係る換算差額 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△164	△69	95
現金及び現金同等物の増減額	△519	△1,405	△886
現金及び現金同等物の期首残高	4,361	4,866	505
現金及び現金同等物の期末残高	3,842	3,461	△381

# 債務償還年数とインタレストカバレッジ・レシオ

当初計画の2010年3月期末、債務償還年数14.0年、インタレストカバレッジ・レシオ3.1を  
 上期で達成 注) 今期上半期の値は年換算での参考値



## 通期業績見通し(連結)

為替の不透明感、景気回復のスピードを勘案し、為替レートは米ドル85円、ユーロ125円を想定、従来の売上高の下期型を上期水準の予想に止め、収益改善施策により利益確保。固めの予想で実績の上振れを期待。

(百万円)

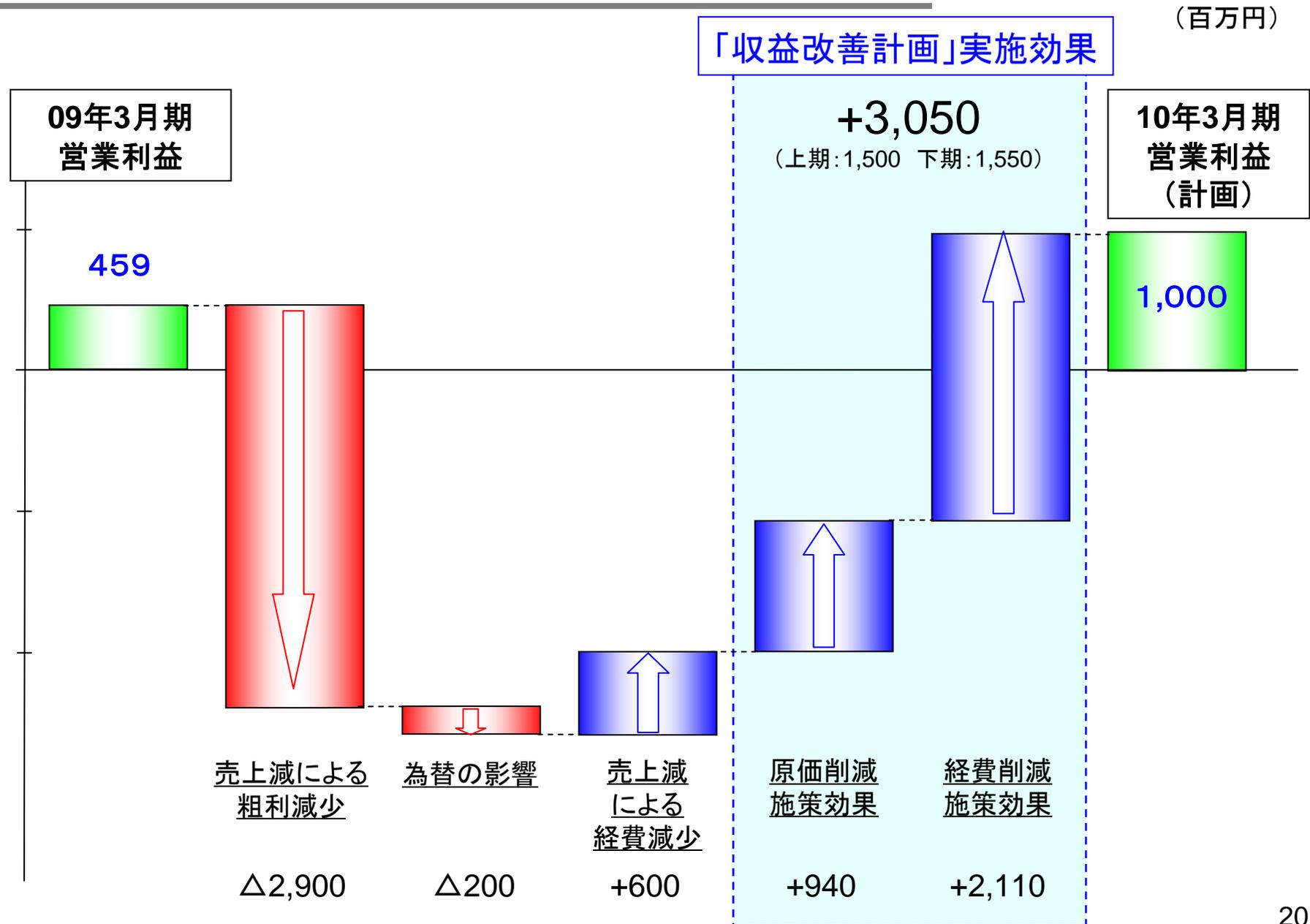
	2009年3月期 実績	2010年3月期 計画	増減 (前期比)
売上高	40,487	33,500	△ 6,987
営業利益 〔営業利益率〕	459 1.1%	1,000 3.0%	541 1.9%
経常利益 〔経常利益率〕	△ 171 —	500 1.5%	671 —
当期純利益	△ 5,083	200	5,283

## 収益改善計画の継続実施

2010/03期での経常黒字化を確実なものとするべく、収益改善計画の継続実施により、通期で削減効果約30.5億円を見込む

テーマ ＜継続実施する施策＞	内容	前年同期比 削減効果	(単位:億円)
原材料費・ 製造経費の低減	原材料費削減の継続、製造経費削減	5.1	
労務費の削減	台湾・タイ各工場でピーク時同等の労務費効率確立	4.3	
販売関連子会社等 の統廃合	トピア工業清算、エルナアメリカ統合 ダイカスト事業の再構築	5.5	
その他経費の削減	引き続き、経費支出見直しによる削減	4.2	
人件費の削減	上半期施策に加え、下半期賞与削減 役員報酬追加削減 給与カット等	11.4	
2010年3月期の期待効果合計		30.5	(上期:15.0 下期:15.5)

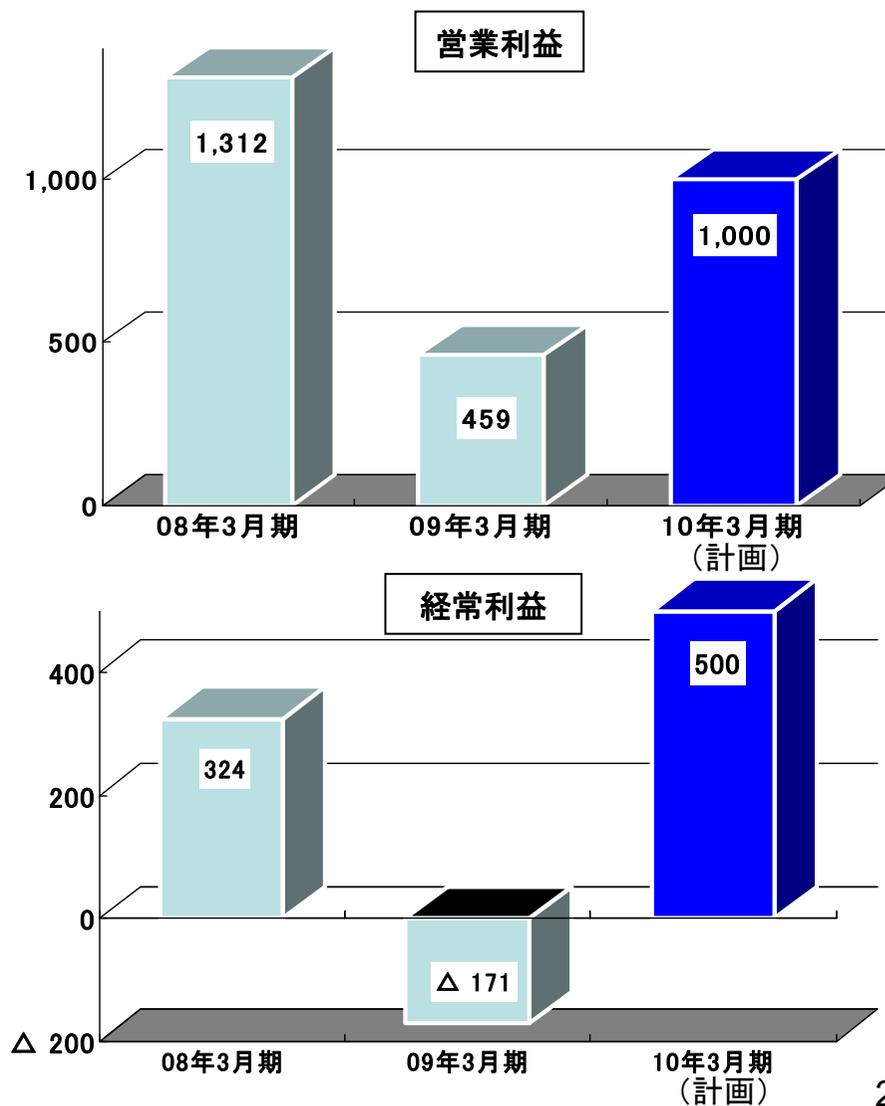
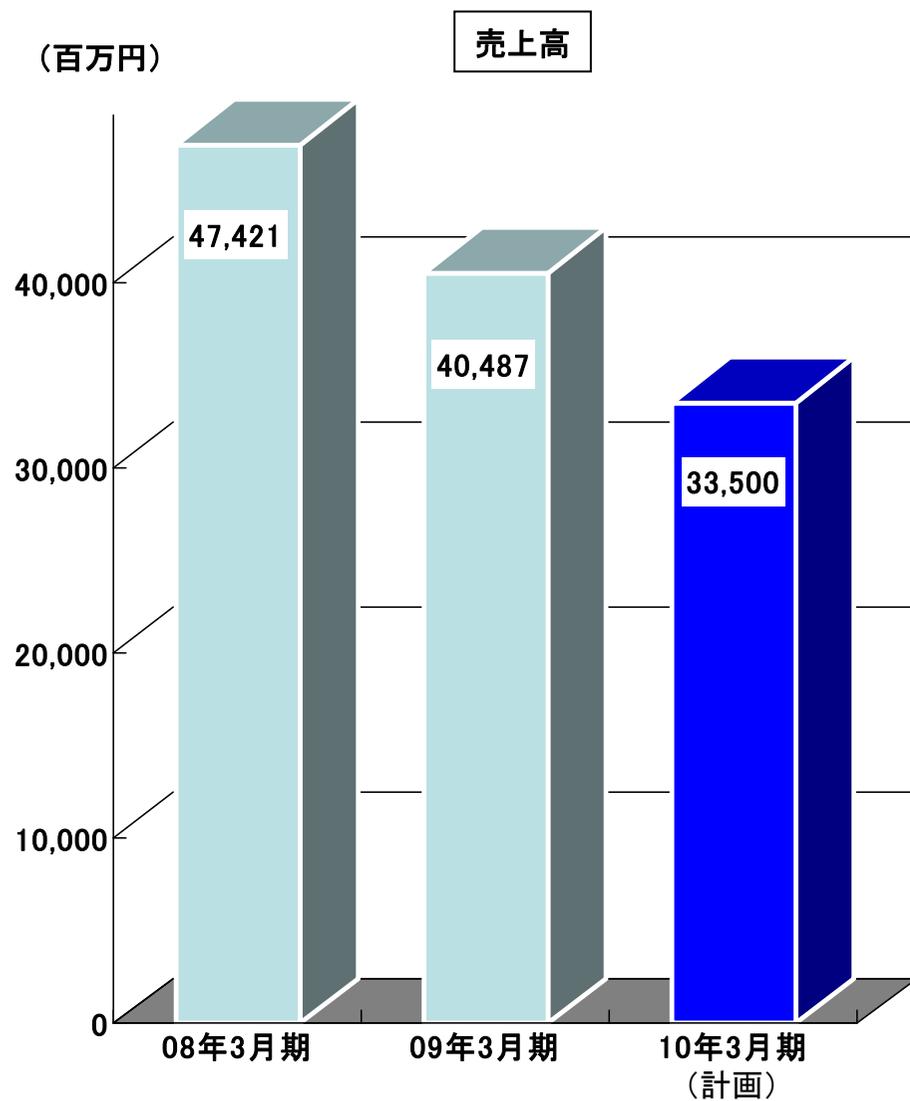
# 営業利益計画の内訳(前年同期比)



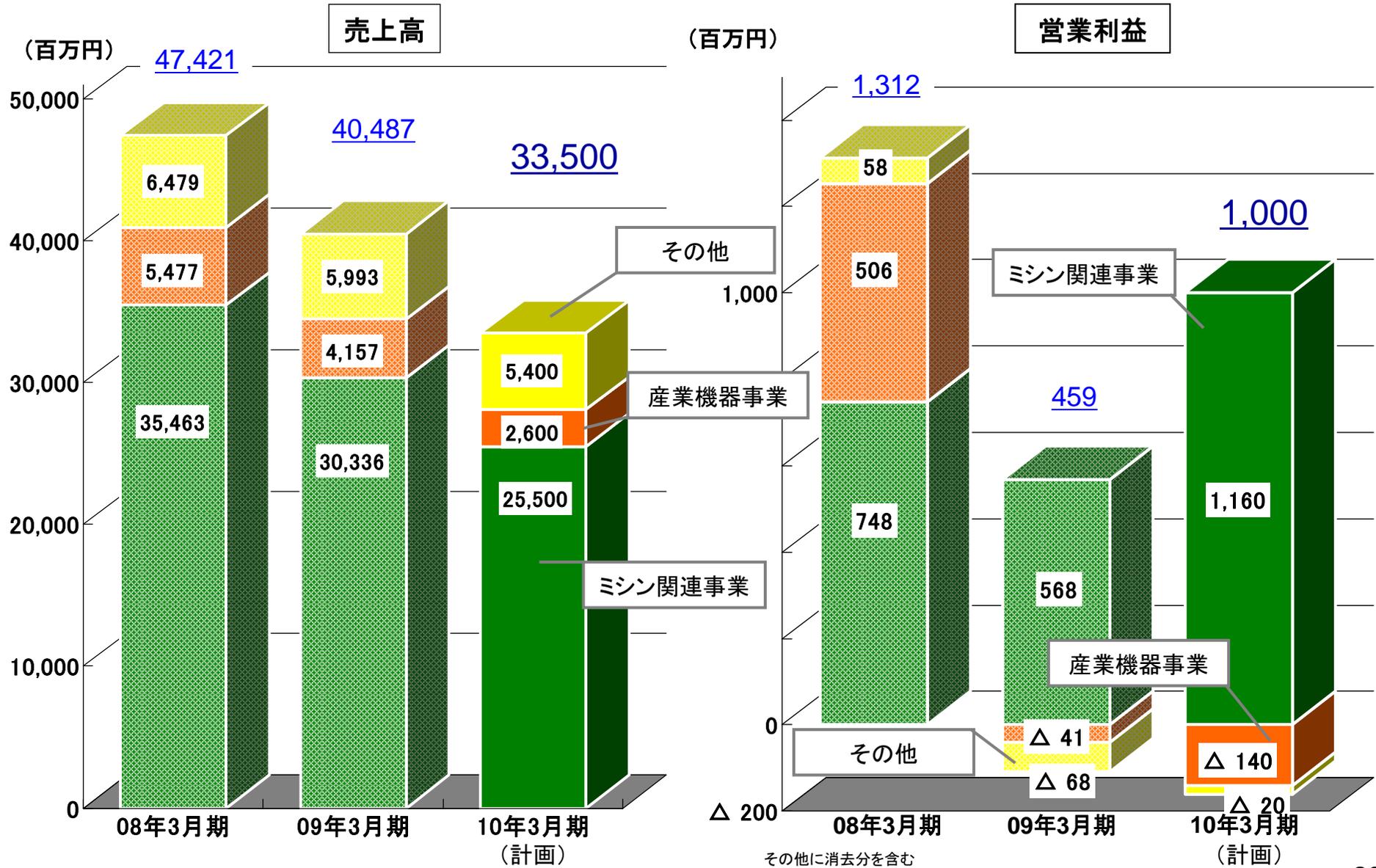
# 業績推移(同期比)



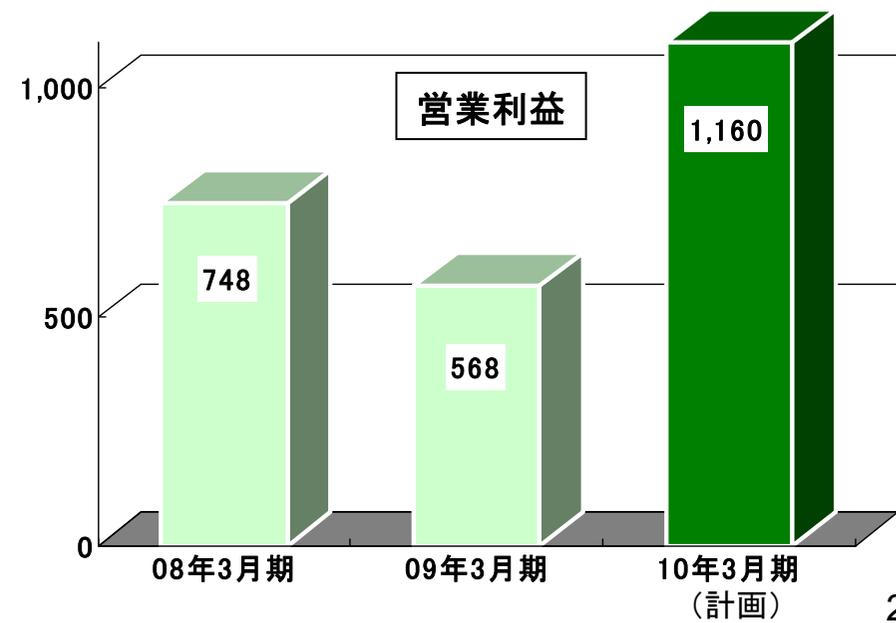
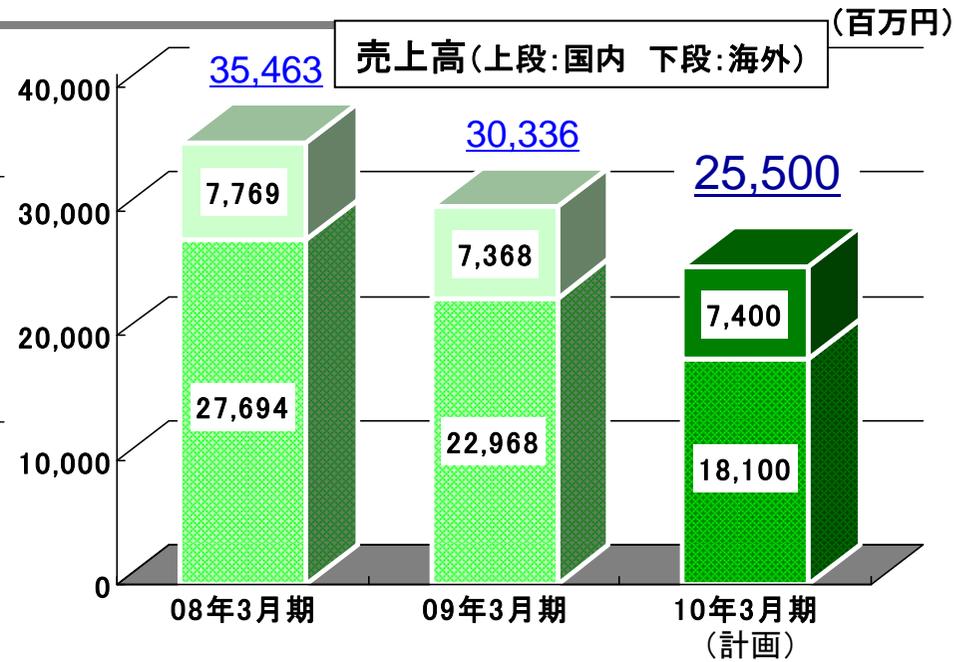
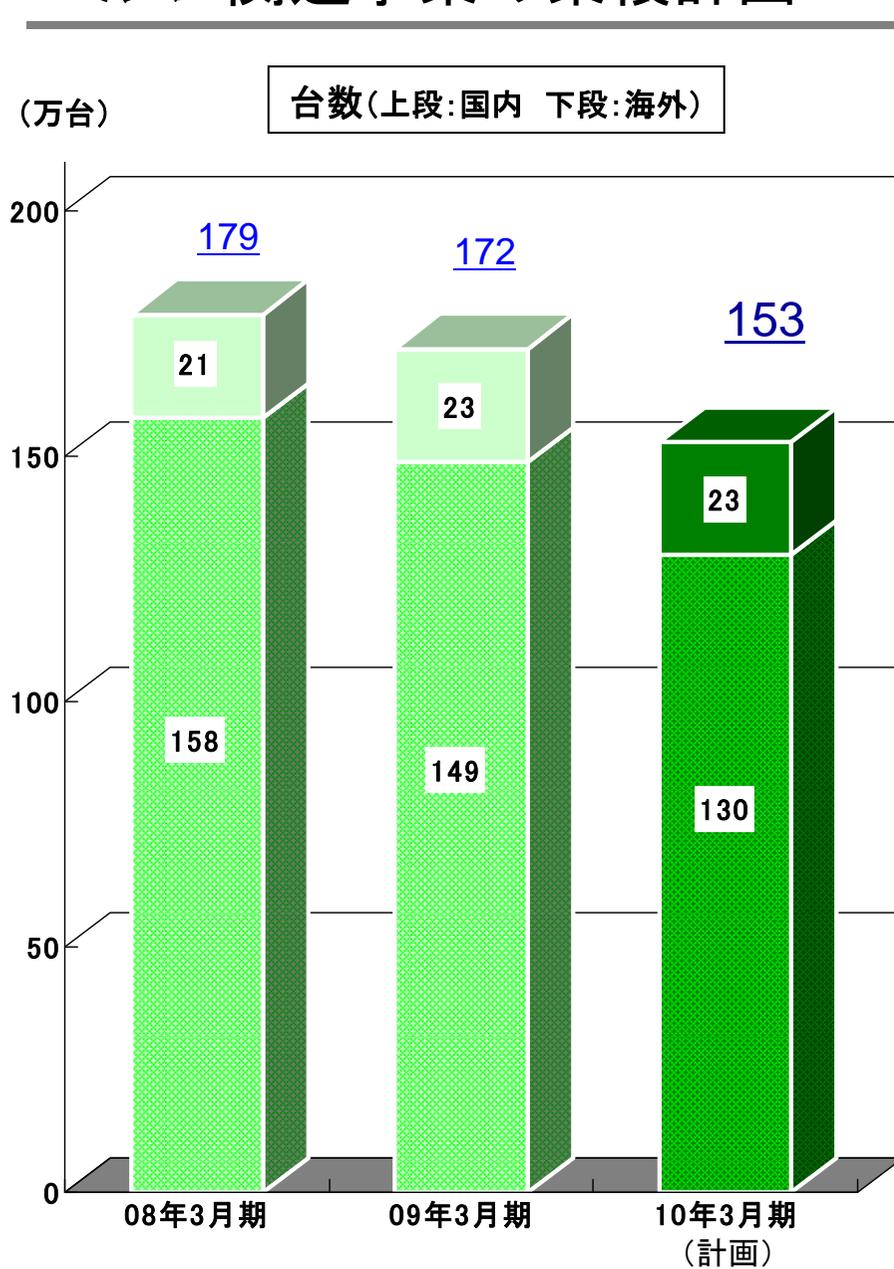
損益分岐点の低下により利益はV字回復



# 事業セグメント別業績計画



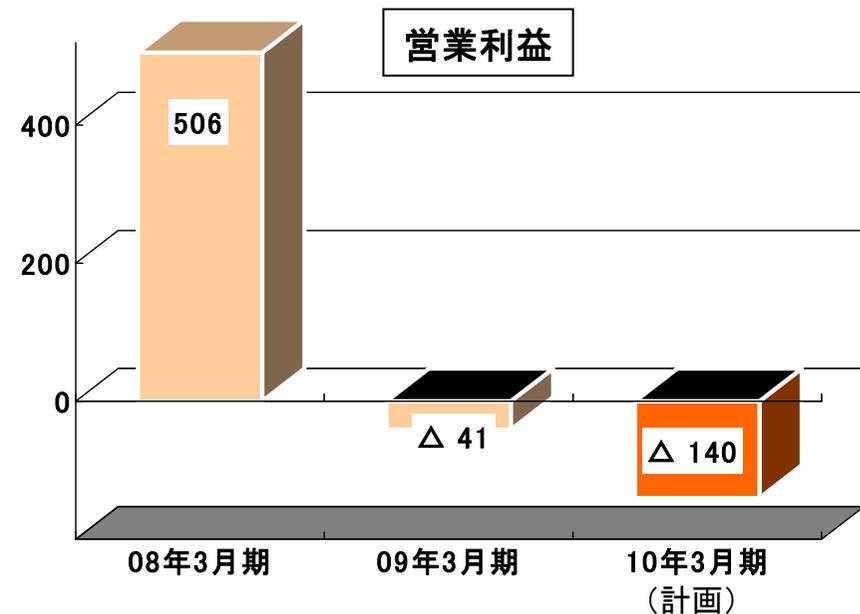
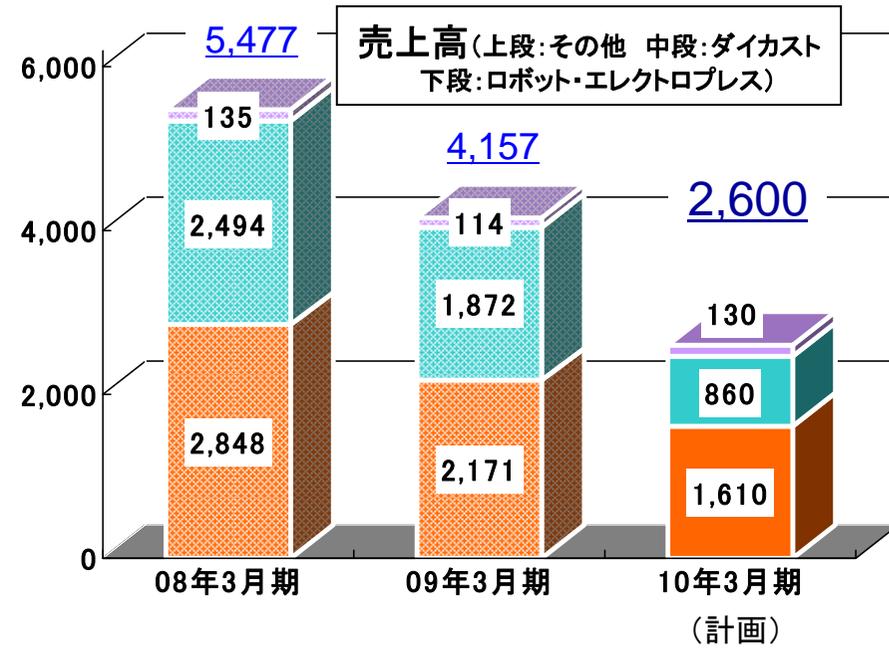
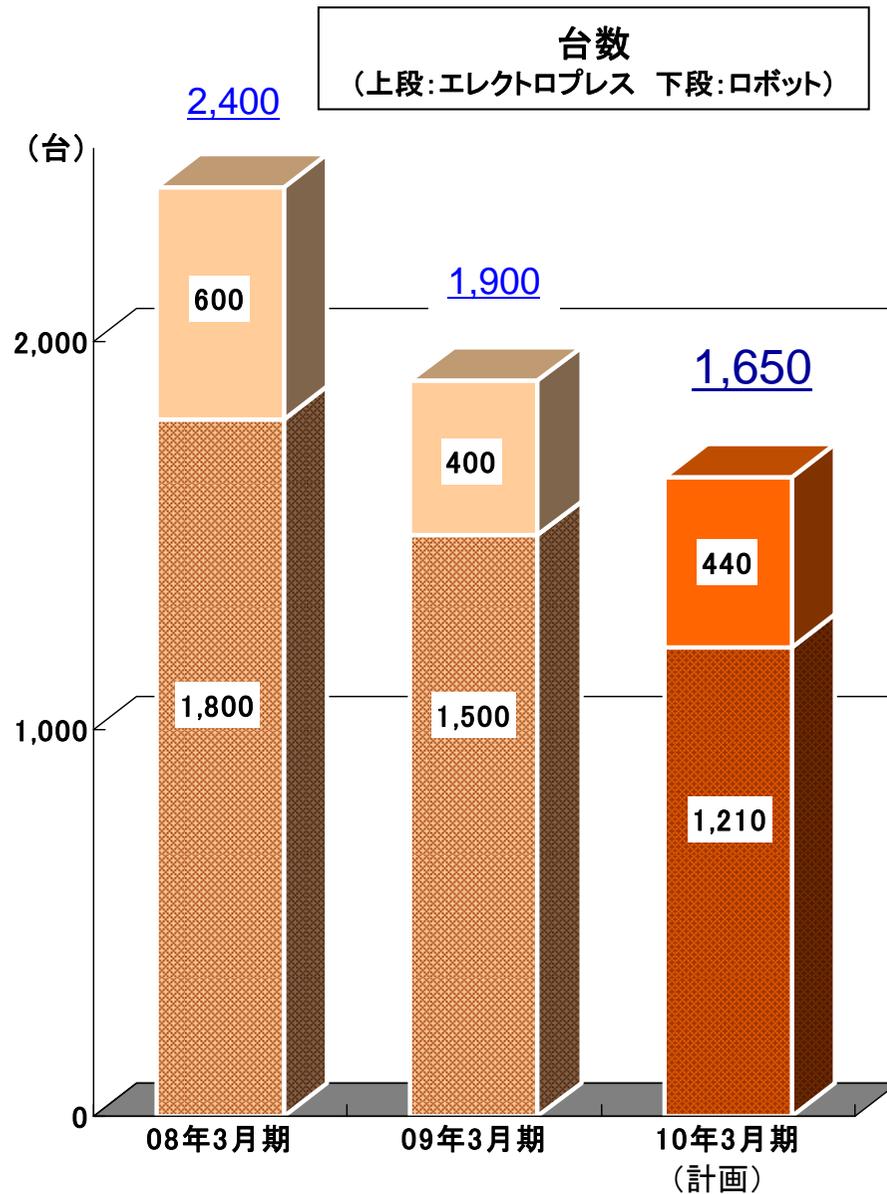
# ミシン関連事業の業績計画



# 産業機器事業の業績計画

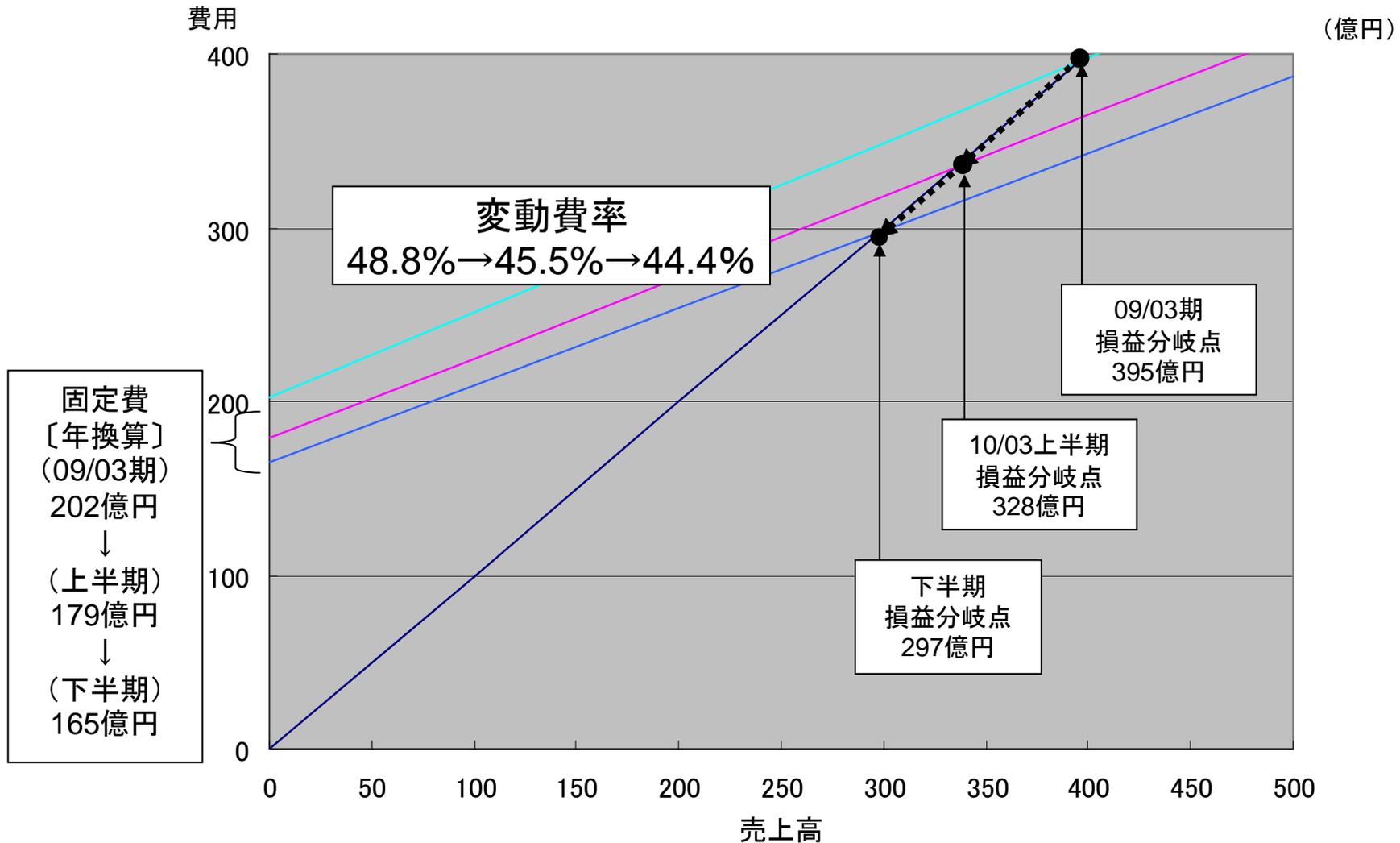


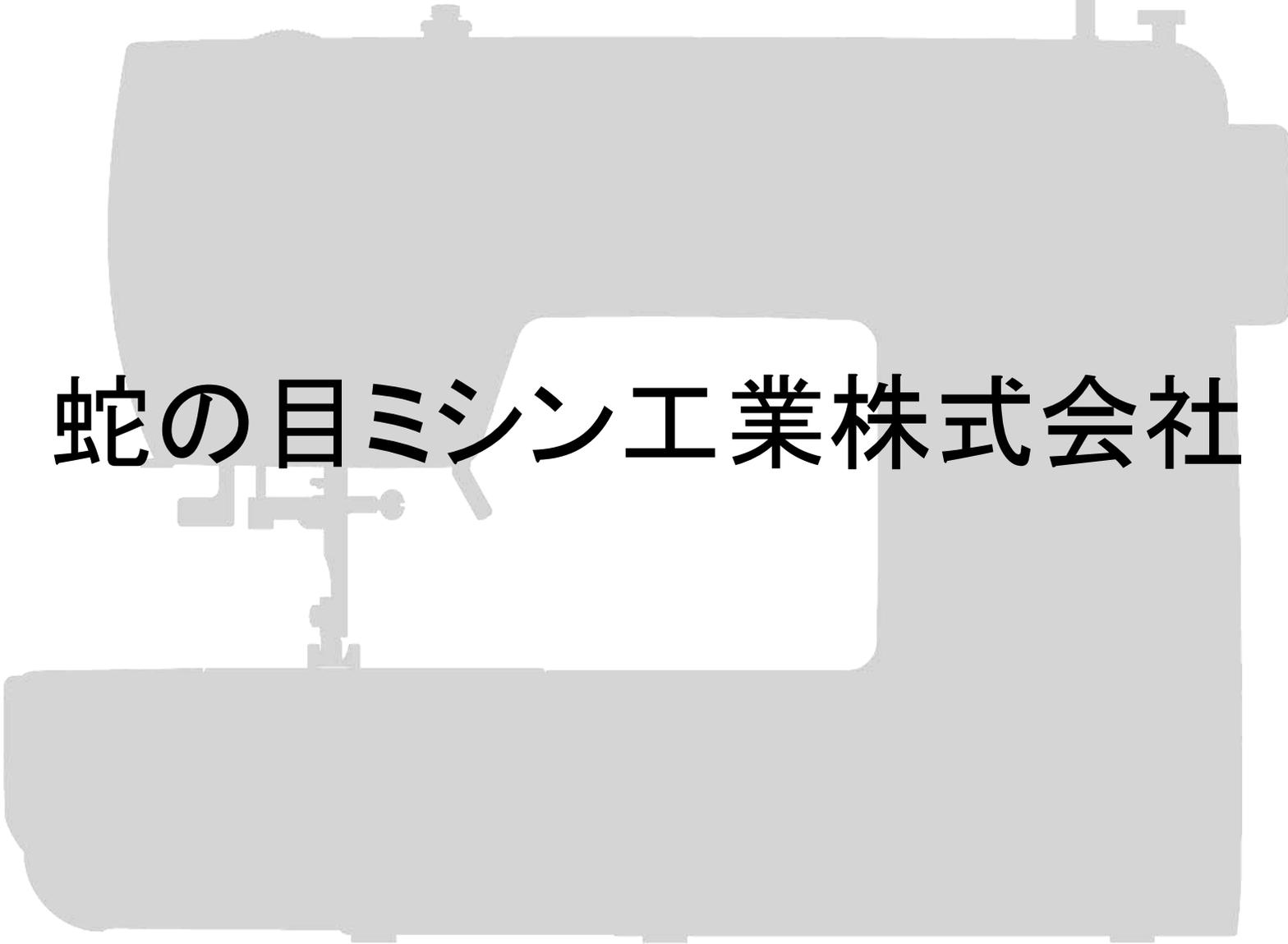
(百万円)



# 下半期の損益分岐点売上高

「収益改善計画」の継続実施で、下半期の損益分岐点売上高は上半期比約31億円、前期(2009年3月期)比約100億円低下 ※年換算





蛇の目ミシン工業株式会社